

令和3年6月17日 議会改革特別委員会 議事録
10時38分 開会

○出席委員 (8人)

委員長 寺岡 公章

副委員長 日域 究

委員 藤川 和弘、小中真樹雄、小田上尚典、西村 一啓、網谷 芳孝
山崎 年一

議長 細川 雅子

○欠席委員 なし

○寺岡委員長 皆さんおはようございます。全員おそろいいただきましたので、議会改革特別委員会を開きます。

コロナ禍で、皆さんには随分御不便をさせてしまっております。いろいろと制限ありますが、御協力いただいております。感謝しております。ありがとうございます。

では、今日は、2点ほど皆さんに確認と、また、協議させていただきたいことがあります。

まず1つ目、中間報告についてです。

中間報告は、4月の時点で案を出させていただいております。前回の会議が、緊急事態宣言ということで、一旦中止をさせていただきました。そのときにも御意見ありますかというふうにメールを送らせていただいたんですけども、そのときも特になく、4月に出したものを本定例会の最終日に本会議にて報告をさせていただきます。

ただ、細かな数字の部分で若干訂正が必要になります。委員会の開催が前回中止になりましたので数を減らすことと、下のほうに、現時点というのが4月の時点と括弧書きです。あれなんです、それを削除しようかと思っております。あとは特に御意見はなかったので、そのまま報告させていただきます。

中間報告についてはこの程度かと思いますが、よろしいですね。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○寺岡委員長 ありがとうございます。

では、その2のほうに入りたいと思います。

議事日程のほうに全て今回書かせていただきました。決算審査と議会提案について、引き続き協議をしていきたいんですけども。

ロールプレイをやった感想をまとめたものをここに書いております。会議の進め方と、この取組に対する考え方というところで、大まかに分けさせていただいております。結構細かな御意見も頂いたりして、よい振り返りができたんじゃないかなと思います。これをどのように反映させていくかというところが、今日の会議の主なところになるのではないかなというふうに思います。今日時点でどこまで話ができるか分かりませんが、またまとめていけたらと思っております。

ただ、先に、私たちのこの委員会の任期が8月いっぱいといいますか、9月の定例会で変わるまでということになっております。この件が決算審査のことなんですよね、ですので、申し送りをして次の回にお任せするにしても、もう少し固めてからこの点を申し送りするとかというの、現在の委員会の中で話しておかないといけないかなと思ってます。

今の時点、7月、8月のこれまでと同じペースでお集まりいただくことになるんじゃないかと思うんですが、それは皆さん御了解いただけますか。中間報告を終わってから集まるというのがいいのかどうかというところもあると思うんですけど、よろしいですかね。うちらでできるところまでは責任を持ってやっていって、次の9月からの委員会が、令和2年の決算から試行してみましようやと言うときにさっと動けるような、そういったところぐらいまでは行けたらと思っておりますので。

いいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○寺岡委員長 特に反対ないようです。

じゃあ、一応そのスケジュールで考えていきたいと思います。

ですので、今日は一番下の四角書きのところを増やしたり減らしたりができたらいいかなというふうに思います。

サイドブックの資料は御覧いただけてますかね。これが会議の進め方で幾つか上がっておるんですが、これを一番下の四角のところ当てはめていくかどうか、そういうところが今日の意見交換かなと思います。

前回会議でこういった意見が出たんですけど、これをどうやって反映するか、何かお気づきのことがあれば聞かせていただきたいんですけど、いかがでしょうか。

小田上委員。

○小田上委員 まず、大きく1個だけなんですけど、テーマをどこでどう絞るかということが前回も出たかなと思います。なので、下の括弧の四角の中です、決算特別委員会が終わった後に、もう会派内である程度テーマを出すとか、テーマの出し方はある程度決めておかないと、意見集約に行く前にテーマをどう出すかというのを先に決めるのがスムーズかなとは思いました。

○寺岡委員長 ですから、それは一番下の1月20日の会議資料で言えば、決算特別委員会審査終了の直後ということですよ。ありがとうございます。

テーマの出し方という意見がありました。ほかに何かありますか。いいですかね。

今日はこれを中心に話をしたいと思います。

テーマについてはこれだけ意見が出てます。

テーマを絞って、決算と結びつけて意見交換したらどうかということと、正副議長、正副委員長で絞って委員会に提案したらどうか。それから、下のほうは、会派なり、何なり文書で提案してはどうかということ。また、提案の重さを意識しながらテーマを選定する必要がある。このあたりがテーマ、どういったところを議会提案に結びついていくかのスタート地点の意見になってるように思います。

今の小田上委員の御意見では、決算特別委員会終わって、次の集まりまでにある程度絞

っておくほうがスムーズに進むという御意見だったと思うんですが、それについてはいかがですかね。

それか、全く逆のことで言うと平場で意見交換をしていくということになるんですが、この間のロールプレイというのはそういった形だったと思います。

今日は御意見出しにくそうですが、要は次、試行するとしたらどういった格好でやるべきか、実行でもいいんですけど。

小田上委員。

○小田上委員 テーマの決め方というところで、平場ですべて出していくのか、事前にある程度絞っておくのかというところを委員長言っていたので、事前に会派である程度もんでおいてテーマを出し合ったほうが、会派によっては、場合によっては、今回こういう意見が出たけど、提案するほどでもないよねという結論を持ってこれるかなと思います。

なんで平場で集まると、あれもこれもと多くなり過ぎて、結局本当に出すべきものがあるのかなのかということにもなるかなと思うので、平場でやるよりも、ある程度その会派なのか、常任の委員会のくくりでやるのかは別として、テーマはある程度決めてきたほうが有無も含めていいかなと思います。

○寺岡委員長 ありがとうございます。

先に皆さんにお伺いしたいんですけども、平場でやり取りではなく、事前にある程度小集団でもんだ意見というのを持ち合うという方向で考えていってよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○寺岡委員長 じゃあ、そういうふうにしてもらいます。

では、どういったカテゴリで提案をしてもらうか。

今の小田上委員からは、会派、常任委員会というあたりが出ましたが、ほかに何か思いつくことがありますか。なければこの2つ、現実的にどうなのかというところで決めて。思いつきでも構いません。

どうぞ、副委員長。

○日域委員 例えば、何人か賛同者を集める。会派の中で、何もかも一致してるわけじゃないんで、好き嫌いというかの分野もありますよね、関心のある。ひょっとしたらあり得るかなと思って。

○寺岡委員長 意見書を出すときとかと同じような感じですよ。ありがとうございます。

そのほか何か、こういったところから文章というか、意見をまとめて出すのはあるんじゃないかというのはありますか。

小田上委員。

○小田上委員 進め方のところにも書いてあるんですけど、正副議長、決算特別委員会の正副委員長で事前にテーマ出しておいてという方法もあるのかなと思います。

今の賛同者というところで、賛同者を集めるときに、じゃあどういうテーマがあるのかということも、そういうので出れば動きやすいのかなと思ったりして、具体的な個別の集団のくくりにはならないですけど、テーマを出すのが、それという手もあるのかなと思いました。

○寺岡委員長 ありがとうございます。

今のところ4つですね。

取組に対する考え方も踏まえながら、テーマの重さというのを考えるというところも含めて、どのあたりが現実的か、効果的かというところで執行の計画立てていきたいんですけど。まずこれでやってみるというそういった御意見ないですかね。

ブレインストーミング的に今も御意見を出していただきましたけども、それをどうやって集約していくかというところなんですよ。実現性・現実性、それから効果、このあたりが判断する基準になるかと思うんですけど。

小田上委員。

○小田上委員 賛同者と副委員長言われたのは、確かにそのとおりだなと思うんですけど、完全に平場で賛同者を集めていくとなると、1人ずつ聞いていくなりというところになってくるかなと思うんですね、事前に。だったらある程度、会派で出しておいて、その中で話を1回目どういう集まり方をするかは分からないですけど、聞いた上で賛同者がいるようであれば、その中でさらに深めていくという方法が採りやすいのかなと思うので、最小の単位で行くと会派かなと思っています。

○寺岡委員長 ありがとうございます。

最小単位では会派かなと。意見の中には、常任委員会というところもアイデアの1つとして出ました。たまたま常任委員長いらっしゃるんですけど、西村委員、委員長として采配するとき、決算特別委員会でいろいろ出た意見というのを常任委員会の所管の中でまとめていくというのは、実際どうですかね、可能かどうか。

西村委員。

○西村委員 別に難しく考えることはないと思うんですが。

例えば、総務文教委員会の中で、皆さんからこういうことを提案したらどうかというのは、それは総務文教委員会の中でまとめて出すという、1つの意見であれば、それぞれの委員がそれぞれの会派に所属しておるわけだから、やはり持ち帰ってやるか、それとも総務文教委員会だけの案という柔軟な対応で考えていかんと、出せばええとか、言えばええいう問題では私はないと思ってます。

○寺岡委員長 常任でするにしても、一旦会派に持ち帰ってもらってという段階は起こるんじゃないかという委員長としての気づきでした。

ということであれば、常任委員会を出すかどうか、また次の段階で話をするとして、当面執行の計画としては、会派の中で持ち帰って行って提案の中身をまとめていく、そういった方向で行きましょうかね。

副委員長おっしゃった賛同者を募るというのは、難しさもあるという御意見でしたので、もう少しこの流れの中で慣れてきてというか、段階的に将来的にはそういうこともあり得るよねというぐらいになりますかね。

いかがですか。

特になければ、まずは、会派で意見を出す段階をつくるというところで次の計画には当てはめていこうかと思えます。いいですね。

では、その意見の出し方ですが、前回の会議では、文書で提案してはどうかというふうな意見もありました。文書で提案するか、会議の場面で会派代表として発言・提案していくか、このあたりは皆さんどう思われますか。

藤川委員。

○藤川委員 まだ文書の段階まで行ってないのかなと思ったりもします。会派でもんで、その後、各派代表者会議もあるのかなと思いました。その後に決算特別委員のほうに戻すのか、そのまま戻さずに議員全員協議会に持っていくのかは、まだ見えないところではありますけど、文書、各派代表でまた話し合うのも1個手なのかなと思います。

○寺岡委員長 各派代表者会議でその後までやるという提案は初めて出ましたので、ですので、各派代表で会議で意見調整をするにしても、その後、決算特別委員会でまた諮っていくことになるんじゃないかなと思います。1つのルートとしてはそれもあるんじゃないかという御意見です。ありがとうございました。

ほかいかがでしょう。

小田上委員。

○小田上委員 会派である程度こういうものがあるんじゃないかというのは、箇条書程度にはできるかと思います。事前に箇条書きしたものがあれば、似通った意見が出るかどうかというのも、前日までに資料があれば、ある程度読んでこれるのかなと思います。

確認したいんですけど、今の流れで行くと、会派で意見をと言ってますけど、この意見集約をしていく、実際の議論をしていくというか、話し合いをしていくメンバーは、そのときの決算特別委員会のメンバーがやっていくという考え方で大丈夫ですか。

○寺岡委員長 下の四角にある1月20日の会議の時点では、この丸がついてる決算特別委員会が終わったら、そのまま所属の委員さんの中で意見をまとめていって、本会議という3つは特に反論がありませんでした。その間で内容を入れていくのがよりよいかという、そういう議論に今なってます。

箇条書ぐらいならできるんじゃないか。大体大まかな会派というか、全体の意思は表れるんじゃないかというところですね。ありがとうございました。

ほかはいかがですか。

委員長として気づきは、決算が委員会で通過して、本会議通過が12月議会なんですけれども、委員会で通過するのが10月中頃と考えたときに、できるだけ中身はもちろん煮詰めていかないけんのは当然なんですけど、できるだけ時間短縮しながらやらないと来年度予算には間に合わないという、緊急性があるものについて対応し切れないということもありますんで、その時間経過も考えていかんといけんかなというふうには感じてます。それが、この場にいらっしゃる委員の皆さん方がどこら辺のバランスを取っていかれるかというところは、相談の上というところではあると思うんですけども。

ものによっては翌年度ではなく翌々年度とか、3年後とか、その予算に反映されてもいいよ、されるぐらいでもええよというものもあるかもしれませんが、緊急のものが出たときに、あまり手順がたくさんあったら間に合わないかなと思います。というところもあるんですけど、いかがですかね。

議長、何かありますか。いいですよ、どうぞ。

○細川議長 今緊急の場合と、臨時議会はどうかだったかなと思って。条例を確認してみないと分からないんですけどね。

○寺岡委員長 臨時議会は、今は11月は開いてないですよ。人勧も12月に間に合わせてると思います。

○細川議長 議会で提起というか、臨時議会で議会として議決をすとかいうのは可能ですかね。それだけどうなのかなと思って。

○寺岡委員長 局長、臨時議会は今回のような中身で、議会で集めることは許されてましたか。

どうぞ。

○三上議会事務局長 分かりませんので、調べてみます。

○寺岡委員長 お願いします。

ともあれ、本会議で決議をするタイミングもなんですが、物理的な時間が足りないというところで進めていきたいと思います。

どうしましょう、意見ないようですが、先ほど藤川委員がおっしゃった各派代表者会議も、中身を煮詰めるにはすごくいい手段のいい場だとは思うんですよ。

ただ、試行の段階ですので、ここの部分は今は外しておいて、会派で出してもらったものを特別委員会で調整というか、意見交換していくというところで試行の計画を出してみたらと思います。

ですので、今日の意見交換しておる中の決まったところ、この下の四角の中で、決算特別委員会審査終了の下の会派での意見調整、ここの括弧が外れるんじゃないかなと思いますけれども、どうですか。それで進めるかどうかというところですけど。

特に反対ないですね。じゃあ、方向性はそれで行きたいと思います。

何回も言うように、実行というより、多分1回試行してみないと分からないところもあるので、その試行の計画というぐらいで思ってももらったらいいんですけど、括弧外れますね、それでは、次の会議のときにはね。

皆さんからは文書でというふうにありましたが、文書でよろしいですか。箇条書も文書の1つとして。

副委員長ありますか。どうぞ。

○日域委員 文書で書いたほうがいいものもあれば、文書にすることもないものもあるかもしれませぬ。

執行部がやってることについて、ある意味ですよ、取りこぼしとか、気づいてないことについて議会側からこんなのをやったらいい、どうですかという話だと思うんで、具体的なものですよ。具体が見えないとなかなか分かりませぬけれども、文書ですよ、やっぱりね。口頭で何とかよねと言うたんじゃ、あまりにも寂しい気がしますけど。

○寺岡委員長 ありがとうございます。

文書のいいところが、会議の二、三日前を締切りにしておいたら、ほかのところからこんな意見も出たんだなというのが分かるころはいいかなと思います。一応その方向で行

きたいと思います。

では、決算審査が終わったら会派で調整していただいて、文書で提出。基本的には、その何日か後に決算特別委員会をまた開いていただいて、決算特別委員会という名前になるのかどうか分かりませんが、そのメンバーにお集まりいただいて、意見集約をしていく。

次の流れが本会議なんですけれども、その本会議までの間に、ここでまた常任委員会が出たり、議員全員協議会が出たり、議会運営委員会が出たりというのが1月の時点での皆さん方から出たアイデア、全部書いたものがこれです。これで、これは要らんのじゃないかなとか、さっきの各派代表者会議、これも入れたほうがよりよいものができるんじゃないかなとか、そういった意見があれば、聞かせていただきたいんですけど、どうでしょう。

なお、おさらいになりますけど、ここで決算特別委員会意見集約というのは、実際に決算の中身を3日間かけて審査をしてこられた、その年の一番知見の高い議員の皆様ということで、決算特別委員会にそのままやってもらったらいんじゃないかというところで、ここは決算特別委員会委員会意見集約というふうになってますので、そこは御理解いただいていると思います。

本会議までの道筋、どうしましょう。

小田上委員。

○小田上委員 この大きい白丸の2つ目の意見集約というところですけど、この意見集約というところで、どこまで集約できてるのかで内容がそれ以降変わってくるのかなと思うんですけど、これで行こう、このテーマで議会提案をしようというところまで、意見集約のところまで固めた状態にするのかどうかでその後が変わると思うんですが、この意見集約はどこまでやる感覚、イメージですか。

○寺岡委員長 今の時点では、本会議には、決算特別委員長の名前で提案ということになるかと思います。今の話合いの中ではね。

ただ、下に括弧で、幾つか協議の場がアイデアとしてあります。どこら辺をどうかませていくかというのはこの場で決めていっていいと思います。

例えば、決算特別委員会委員長と議会運営委員会の委員長の連名で提案とかというのも可能ですよね。この3つ、どれが必要でどれが必要でないか、必要でないというよりも、時間とのバランスの中でどういうふうに整理していきましょう。

小田上委員。

○小田上委員 もう自分は従前から言っているんですけど、議員全員協議会は難しいのかな、全員の意思を諮る場でもないです。

なので、それぞれの議員に対しては会派を通じて説明できればいいのかなと思うところと、決算特別委員会を通じて出てきた意見なので、決算特別委員会の委員長が提案するのが筋じゃないかなと思います。

なので、この括弧書き3つある中で言えば、両常任委員長、決算特別委員長、議長が入って協議をして、最終的には決算特別委員長名で提出するというのが、流れとしては一番スムーズに行くと思います。

○寺岡委員長 すみません、今のをもう少し補足説明していただきたいんですけど。

両常任と決算特別委員会と議長で協議をして、何を決めるのか何を協議するのかというイメージか。

小田上委員。

○小田上委員 議長が直接というところは、これを最終的に出て通るものなのか、執行部に要望できるものなのかというところもあろうとは思いますが、この両常任委員長と話をするというのは、提案したい内容の所掌によって変わってくるのかなとは思いますが、本当にその委員会内で協議してきて、ある程度結論が出てるものに対してのテーマが上がりましたとなった場合に、常任の委員長がそれは待ってほしいとか、最終的な大きな流れもあろうと思いますので、そこの判断を決算特別委員会の委員長1人で、これで提案するというところは難しいと思うので、最終的なところの判断はこのあたりでできればいいのかなというイメージでした。

○寺岡委員長 ありがとうございます。

イメージの段階で結構なんですが、その意見調整というのは、決算特別委員会である程度もんだ上で、常任の委員長さんに諮問というか問合せをするのか、それともその逆で、会派から意見が上がった時点で常任の委員長さんから意見をもらっておくのか、イメージはどんな感じですか。

小田上委員。

○小田上委員 事前に会派で意見を出すということもありますので、その会派に常任委員長も所属されてるというところで、ある程度の決算特別委員会の委員もその意見を集約していく中で、常任委員長の意見も全く出てこないわけではないと思うんですね。

なので、最終的な判断というところだけでいいのかなとは思ってます。

○寺岡委員長 ですから、それまでは、決算特別委員会の委員の皆さん方にしっかりやってもらうというイメージですね。ありがとうございます。

そのほか何かありますか、皆さんのほうから。いいですかね。

じゃあ、仮に、この今の小田上委員がおっしゃったことを当てはめていってみましょうか。

そうすると、決算特別委員会が9月議会でたしかつくられると思うんですけどね。決算の審査をしましょうというふうな感じで任命されます、本会議場で。そうすると、ここも含めて解散の時期が今までと変わってくるわけなんですよ。

ですんで、その辺りをルール上もう一度私のほうでも確認しておきます。決算特別委員会の役割、委員の役割というところは、何か規約か何かののっとれば、それを逸脱することはできませんのでね、確認をしてみたいと思います。

もし決算特別委員会はもう決算への委員会開いて、特別委員会として認定、不認定するだけよというのであれば、両常任委員長名で本会議上で提案ということも考えられますのでね。その辺をじゃあ私が整理しておきます。

あと、議会運営委員会がアイデアとしては出てるんですが、議員全員協議会も、この2つについてはどうですかね。今の時点で両常任が関わってくださるとなれば、議会運営委員会というのは特に必要ないかもしれませんし、もともと議員全員協議会出たのが全員の

意見をうまいことくみ取りましょう、委員に限らずというふうなところがきっかけだったと思います。それは会派で意見を出すというところでクリアできると思うんですけど、この2つは試行の段階では外してみるというのでいかがですかね。どうしてもというのであれば、試しですから入れてもいいんですけど。時間がどれぐらいかかるかは私も想像つかないんですけどね。

小中委員。

○小中委員 取りあえず試行の段階なんで、手続は簡素化を図るべきだと私は思います。

○寺岡委員長 簡素化を図って、まずはやってみるというぐらいですかね、小中委員、のようです。簡素化を図って試行してみる。ありがとうございます。

じゃあ、取りあえず今日のこの協議で出た方向性というのが、会派で文書でテーマの選定をしていくというところ。それから、それを決算特別委員会の委員の皆さん方の中でもんでいくんですが、もんでいって、最終的には常任委員長、また議長などと最後のチェックをしてもらった上で決算特別委員会に戻るか、そのまま本会議かというのは置いておいて、そのフィルターを1回通してから本会議に向いていくというふうな大まかな流れが上がったかと思います。次回の会議では、そういったところをうちの委員会の流れとしてもう持っておいてもよろしいですね。

じゃあそうさせていただきます。ありがとうございます。

仕上げておくことが幾つか出ました。臨時会のことと決算特別委員会の任期というのか、お仕事の内容ですね、それを確認しておきます。

また、事務局、その辺協力をお願いします。

あとは、次のこの委員さんにどう引き継ぐかというところですが、やっぱりどこかの時点で、しっかり申し合せか、要綱かをつくってくださいというのは言うとかないけんかなと思います。願わくば、令和3年度の決算審査の後に施行をしてくださいというのは、申し送りをしておきたいと思います。この2点はよろしいですかね。必要なことだとは思いますが、いいですね。

藤川委員。

○藤川委員 僕は中身のやり方というのは、委員長言われとったように、早くスピードには大切だと思います。だけど提出するというのは、やっぱり僕以前から言ってる重みのあるものにしたいわけですよ、執行部に対して。

僕は中身のことはよく分かりませんが、どうしたら一番重みのあるかいうものをもう一回考えていただいて、名前を例えば全員の名前で書くのがいいのか、議長の名前で出すのがいいのか、常任委員の名前で出すのがいいのか、決算特別委員会の委員の名前で出すのがいいのか、僕そういうのは分かりませんが、少しでも重みのある方法でやっていただけたらなと考えます。

以上です。

○寺岡委員長 ありがとうございます。

議長からも御意見伺いたいんですが、基本的には本会議で決議される、この事実が一番重いのは間違いはないですよ。そこに名前が全員かどうかは置いておいて、ですんで、一

応今その段取りで行ってますのでね。

議長、何かありますか。

○細川議長 藤川委員の思い、すごく大事だと思います。

だけど今委員長がおっしゃったように、意見書案になるのか、意見書を決議するのか、どういう形なのかと分かりませんが、今のところ本会議で最終的には決議するわけですから、それはもう議会としての意思になるんで、一番重たいものになるとは思っています。

○寺岡委員長 副委員長。

○日域委員 手続論はいろんなのがあるんでしょうけど、問題は中身ですからね。中身が軽いものを議会が議決して市長に渡しても、世間に笑われるだけです。

やっぱり問題は、市長は市長なりに一生懸命市政に取り組んでるわけですから、その市長が何かの事情でできないとか、気がついてないとか、そういうところについてある種フォローするように、議会のほうで要望というか提案というかするんだと思いますから、肝腎なのは中身だと思いますし。

もっと言えば、議会が多数決で議決できる内容というものがあつたら、極論すれば、予算変更だってできるわけですよ。

だから、議会の力というのはある意味ではすごい強いわけで、話がかなりエスカレートすると思うんですけども、今まで決算とかの委員会で、皆さんが結構気軽にじゃあ要望で結構ですとやってきたことを、拾い上げようというところから始まったんですけども、最後は本会議で議決して、市長にこれが目に入らぬかと思わせるというのは、落差があり過ぎる気もするんですけども。

何はともあれ要望の中身ですよ。やってみると分からんといえどそれまでですけどね。やってみることはいいことでいいんですけども、あまり事細かく先まで決めなくてもいいような気もしないでもないんですけど、でも決めないとやりづらいというのも分かりますしね、どうしようかなと、正直私自身も迷いながら今しゃべっているんですけども。

以上です。

○寺岡委員長 ありがとうございます。

黒丸の取組に対する考え方の中に幾つかあります。

藤川委員が今言われたこともやっぱり大事なことだと思いますし、決算特別委員会の審査をやる以上、決算特別委員会で本来はしっかりやってもらって、その中で結論を出してもらうような議論を執行部と議会議員がやっていくというのは、本当前提になっていると思います。ここには、基本となるというふうに書いてありますけど。

あとは、ロールプレイを通して、絶対に毎年テーマを出さないけんというものでもないというところですね。そこらあたりは、しっかり実際に審査・議論をしていく議員の皆さんには理解と把握をしておいていただきたいと思います。

今の副委員長の意見とは真逆になるかもしれないんですけど、1つの手段として、ブレーンストーミング的に聞いてもらったらいんですけど、議会で、例えば、翌年度の予算にこれを組み込まなければならぬという条例案はつくっていいんですか。それを調べて

おいてもらったらいいかなと思うんですけど。12月議会あたりで、来年でいえば令和4年度の予算にこれを加えなければならぬ、3月31日でこの条例は失効しますけどというふうな時限付の条例はつくれるもんかなと思ってみました。

調べるだけ調べてみましょうか。また力を貸してくださいね、事務局。

今日は流れがある程度見えてきました。理念の部分、取組に対する考え方も今からまとめて、今後まとめていかなければなりませんので、議会が持つ責任であったり、役割というのを一人一人いま一度お考えいただけたらと思います。それぞれの委員さんが持つての思いというのが議会そのものの成長につながると思いますので、また、意見交換していければというふうに思います。

今日はこの方向が出たところでこの程度かなというふうには思うんですけど、よろしいですか。

どうぞ、網谷委員。

○網谷委員 最後に、一番大きなテーマとなりました重みのあるテーマとそれから執行部にばかにされないやうな言葉も副委員長から出ましたが、それに関係してからの簡素化という意見も出ましたんでね。

この中で、下の枠の中に、会派での意見集約ですよ、これ会派ですから、1人会派の方もあってんですが、3人、4人の会派ですので、1個の項目に絞ってもらうたら、簡素化という意味でも、2つも3つも出されてもね、選ぶほうも大変なんでね、その会派の調整の中で1個の項目に絞っていただいて、それからその調整を決めるというんですか。

下の矢印の両常任委員長のお二人と決算特別委員会の委員長と議長になってます。これは、副議長も入るとるほうがいいかと思ひまして、それでも5人ですからね。これだったら、議会の幹部ということになりますのでね、それだったらもう我々の一般の議員の名前は要らないで、議長名1個で通じるんじゃないか。大竹市議会としての議長という、本当に一番重みのある名前1つで通じるんじゃないかと思ひまして、一言簡素化も含めて申しとおきたいと思ひます。

○寺岡委員長 ありがとうございます。

最初の意見は面白いですね。会派からは1つの意見というところで絞って出す。

○網谷委員 あまり2つも3つもありますと、選ぶほうも大変。

○寺岡委員長 もうついでじゃけ、これも言うところ駄目もとでというのがあっちゃ、重さも何もないですからね。そこらあたりは執行の段階では付け加えてやってみましょうかね。

あと、副議長を入れるかどうかなんです、これ全部長だけで今のところ書いてるんですよ。そうすると、副委員長はどうなにかとなったときに、常任委員会、決算特別委員会、議会、別組織ですから、同じ組織内にありながら別のグループで責任が変わってきますので、副議長が入るか、副が入るかかどうかというのは議論させてください。

ありがとうございます。

次回は、今日話し合ったことをもう一回まとめ直して、また肉づけをしていけたらと思うのと、取組に対する考え方を今のメンバー、これまでもう本当1年9か月やってきたんでね、ある程度の思いというのは残しておきたいかなと思ひますので、そこの意見交

換をできたらと思います。

では、次回7月中にやりたいんですが、今日が17日ですね、議長の御用事はいかがですかね、局長どうでしょう。

どうぞ。

○三上議会事務局長 7月の全体ですかね、下旬、後半。

○寺岡委員長 大体中頃ぐらいで思ってもらえたら。

○三上議会事務局長 7月15日には予定が入っております。あとは7月30日、15と30に公務が入っております。そのほか後半は特に予定はありません。

○寺岡委員長 じゃあ、中頃ぐらいですので、12の週の後半か19の週の前半ぐらいで思ってもらったときに、14、水曜日とかどうですかね。委員の皆さんの御都合。午前中かなとは思うんですけども。

どうぞ、議長。

○細川議長 ごめんなさい。15は基地、私のカレンダーは10時からになっているんですけど、時間間違いかな。

○寺岡委員長 局長。

○三上議会事務局長 15日の基地協議会の下関の件ですか、中止になってます。

○寺岡委員長 初めて聞きました。

○三上議会事務局長 それではなくて、一般国道2号の廿日市大竹道路整備促進期成同盟会の中央要望が15日になってます。

○細川議長 何時から。

○三上議会事務局長 10時からになってます。

○細川議長 中央要望でしょう。じゃあ、委員会午前中なら大丈夫か、すみません、大丈夫です、午前中なら。

○寺岡委員長 14、水曜午前中、10時からでいかがですか。駄目な人、既に。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○寺岡委員長 おってないですね。じゃあ、そのようにさせてもらいます。

7月14日、水曜日、午前10時から、先ほどの話をさせていただきたいと思います。また、それぞれ御準備をいただけたらと思いますので、お願いします。

事務局、いろいろ調べることであって申し訳ないんですけど、力を貸してくださいね。お願いします。

では、以上で今日の会議は終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

11時28分 閉会